



北日本支部

北海道十勝地方における バイオ研究のネットワーク「スクラム十勝」

小田 有二

北海道14支庁中で最大の面積を占める十勝地方は、畑作と酪農を基幹とした大規模農業が展開されているわが国最大の食料基地です。その農業産出額は道内1位の約2500億円で、全道の1/4を占めています。十勝地方では帯広畜産大学、農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター芽室研究拠点、北海道立畜産試験場、北海道立十勝農業試験場および北海道立十勝圏食品加工技術センターなどが、それぞれ長年に渡って地域農業の推進に向けた研究を行ってきました。そして、平成17年3月にこれらの機関が協力して、農畜産物をはじめとする食の安全と安心に関する多様な問題に対処するとともにそれに必要な人材の育成をめざす研究推進連携「スクラム十勝」をスタートさせました。実際の活動は、連携プロジェクト研究、高度な人材育成、研究成果等の普及および活用の促進、情報および人的交流に関する事項で、毎年11月には各機関の持ち回りでシンポジウムを開催しています。

この「スクラム十勝」を主体として実施した初めての

産学官連携研究が文部科学省・都市エリア産学官連携促進事業「機能性を重視した十勝産農産物の高付加価値化に関する技術開発」（平成17～19年度）です。事業内容は以下のような5本の柱から構成されており、その研究成果は論文発表および特許申請され、さらに商品化された品目もあります。

1. バイレシヨから有用ペプチドの生産技術開発
2. ソバ・豆類の健康機能性スプラウトの開発研究
3. 長いもを利用した機能性食品の開発
4. ナチュラルチーズの高品質化と安全性確保技術の開発
5. DNAマイクロアレイ法を用いた食品機能性評価システムの構築

研究開始時に11社であった参画企業は事業最終年には34社にまで拡大し、本事業は地域産業クラスターを構築するのに大きく貢献しました。また、研究担当者にとって実験室での成果が実用化される過程を目の当たりにしたことは、今後の産学官連携研究を進める上で貴重な経験となりました。

都市エリア事業は平成19年度で終了しましたが、その後は府省連携事業にも積極的に取り組み、3省庁5事業へと活動を継続しています。そのうちのひとつが科学技術振興調整費・地域再生人材育成創出拠点プログラム「十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成」（平成19～23年）です。このプログラムは、十勝地方で生産された農畜産物やバイオマスなどの地域資源の付加価値を向上させるビジネスモデルや新規プロジェクトを企画・推進できるコーディネーターおよび生産現場におけるリーダーの養成を目的としています。今後は、このプログラムの「卒業生」が牽引役となって地域に根ざした産学官連携研究をさらに発展させてくれるものと期待しています。

